

Echo

NO. 127 平成 17 年 3 月 31 日

発行：(社) 福島県臨床衛生検査技師会

〒960-1247 福島市光が丘 1 番地

発行責任者：比佐 哲夫

編集委員長 金子 隆子

福島県立医科大学附属病院検査部

TEL. 024-548-4290

第 46 回東北医学検査学会は福島市で

メインテーマ

「変化への挑戦」

サブテーマ

—さらなる医療貢献を目指して—

会期；平成 17 年 10 月 15～16 日

会場；コラッセふくしま

ご挨拶

第 46 回東北医学検査学会
学会長 比佐 哲夫

46 回東北医学検査学会を県都、福島市で開催するにあたりごあいさつ申し上げます。

健康保険の運営難に伴う医療費の 3 割負担をはじめ、検体検査保険点数の削減、包括医療、混合診療の検討等医療制度改革は、我々医療関係者にとって大変厳しい環境にあります。併せて地球温暖化による環境破壊、急速な少子高齢化社会の到来は、医療関係者も早急に対応しなければならない社会問題となっております。一方、患者さんが安全、かつ安心して医療を提供するために、情報の開示、リスクマネジメント、プライバシー保護等の個人情報保護の遵守や、データの共有化等良質な検査データの提供は、臨床検査技師にとって重要な課題になると思われます。

さて、「第 46 回東北医学検査学会」は、福島市の「コラッセふくしま」を会場にして平成 17 年 10 月 15 日(土)、16 日(日)の両日開催されます。テーマは「変化への挑戦」—さらなる医療貢献を目指して—として医療体制の変化に対応するやわらかな心と、患者の目線に立ったサービスと良質なデータの提供するには臨床検査技師が何をなすべきかを皆様と考え、良い所を 1 つでも日常の業務に取り入れていただければ幸いです。教育講演は、福

島県立医科大学医学部教授 吉田浩先生の「正しい検査値を目指して」、公開講演は、福島大学人間発達文化学類教授 白石豊先生の「やわらかな心」、レクチャーでは、標準採血法、院内感染情報、基準値共有化、超音波検査、医療効率をテーマに講演を企画しております。また、ランチョンセミナーも企画し、最新の情報をアナウンスしていただくことにしております。さらなる医療の貢献につながる内容となるようこころがけました。大いに勉強をしていただければと思っております。なお、最大の情報ソース、及び学会の成功は、会員の皆様方からの日頃の研究成果や症例等の発表です。数多くの発表をお願いいたします。

福島市は、県の北部に位置し、東北各地から会員の皆様が集まるには最適な場所です。学会会場は「コラッセふくしま」、学会式典会場は「福島ビューホテル」です。両会場とも福島駅西口を出まして右側が「コラッセふくしま」、正面が「福島ビューホテル」と位置しております。

また、福島市は、いろいろな果物が栽培されていて、10 月ですとナシ、ブドウ、リンゴが直売所等で販売されています。なお、コラッセふくしまには、県内各地の物産が展示・販売されていますので、ぜひお帰りの際は、お寄りいただき福島の思い出としてご購入いただければ幸いです。

歴史的には、源義経に仕えた佐藤継信、忠信ら佐藤一族の菩提寺である「医王寺」、松尾芭蕉が訪れた「信夫文知摺」、六甲おろしの作曲家「小関裕而記念館」等が市内にあります。そして、ちょっと足を伸ばしていただき、有料観光道路のスカイラインを通り、紅葉を観ながら猪苗代湖畔にある「野口英世」の生家等の観光をしていただくには最高の季節と思います。



第46回 東北医学学会

学会内容速報

教育講演『正しい検査値を目指して』

講師：福島県立医科大学医学部臨床検査医学講座教授
(検査部長) 吉田 浩 先生

日時：平成17年10月15日(土) 15時～16時30分

一般演題申込要領

【一般演題申し込み資格】

- ・一般演題の筆頭発表者は原則として平成16年度日本臨床衛生検査技師会会員に限ります。
- ・共同発表者は原則として会員7名以内です。それ以上の共同発表者がいる場合には、本文抄録中にその旨を記載してください。

【受付開始日および締切日】

演題と抄録を個別に登録することができます。

演題予備登録 開始：平成17年5月6日(金)

終了：平成17年6月3日(金)

抄録原稿登録 開始：平成17年6月24日(金)

レクチャー

平成17年10月15日(土) 13時20分～14時50分
レクチャー要旨

医療界の氷河期ともいわれている今日の医療、とくに「臨床検査」を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。このような折、日臨技が推し進めている臨衛技法改正の要望書のなかで、長年の懸案であった「輸血検査」、「微生物検査」、「細胞検査」に関する3つを日本医師会が特定検査として「臨床検査技師の業務とすることが望ましい」とした努力規定を承認したことが報道されています。今後、職能・学術団体として臨床衛生検査技師会が果たす社会的役割と責任が益々重くなっていくものと考えられます。

このような状況で、単に日常検査をしっかりとやっているだけの意識で業務を行っている医療界では生き残れない状況に追い込まれているといっても過言ではありません。この変革を迎えている時期に、しっかりしたモチベーションをもって、臨床検査技師として進むべき方向性をしっかりと認識することが今我々に問われています。

今学会では、現在の臨床検査業界に突きつけられているさまざまな「変化」を、予定している5部門のレクチャー①超音波検査、②院内感染(情報)、③基準値共有化、④標準採血法、⑤医療効率(検査室改善)、を通してよく見極めていただき、今後の臨床検査の現場に少しでも役立てていただきたいと思います。

各部門の講師には医療現場の第一線で活躍されている先生方を中心にそれぞれの分野の研究成果や豊富な経験

を生かした講演をお願いしてありますのでご期待下さい。

5部門

- 1 『超音波検査』第1会場(4階多目的ホール)
- 2 『院内感染-感染情報-』第2会場(4階中会議室)
- 3 『基準値共有化』第3会場(4階小会議室)
- 4 『真空採血』第4会場(小会議室)
- 5 『医療効率-検査室改善-』第5会場(5階研修室A)

各支部事務局長だより

私たちが取り組んでいる“5S活動”とその成果

会津支部事務局長



竹田総合病院 齋藤市弘

一般に病院検査室という所は、自動分析器、簡易検査キット、帳票、文献などと、その形、大きさ、色調には統一性が乏しく雑多な職場環境であることが多いようです。

さら
与で
シヨ
残存
ます。
査マ



に、特定の人しか関
きないといったセク
ナリズムが、根強く
している場合もあり
それが故に、各種検
ニュアルは取り揃え

ているものの、何処に置いてあるのか見つけられない。マニュアルを探すのに無駄な時間を要することも多々あります。検査に時間がかかりすぎたり、臨床からの問合わせに対する受け答えが人によって違っていたりと、先方を混乱させ検査室の信用を一気に失うこともしばしばです。4年前、私共の施設に日常業務目標として取り入れられたのが5S活動でした。

「5S」……聞き慣れない言葉です。

5S活動とは整理、整頓、清掃、清潔、しつけを職員全員が徹底し、業務の効率化、ミス(事故)の防止、経費削減(適性在庫)などを達成し、それを維持・継続していくことです。導入当初はしぶしぶ行っていたのですが、全員参加の意識が浸透するにつれ、私たち臨床検査科に予想以上の成果をもたらすようになりました。

最初に取り組む5S活動は整理・整頓です。検査科内で要らない物、ほとんど使う機会がない物はためらわずに捨てる(整理)のです。次に、検査業務に必要な物品の置場決定、テプラによる表示(整頓)です。これらを行うことで業務スペースに余裕が生まれ、物の所在が明確になります。さらにスタッフの意識が高まるにつれ、検査業務の手技統一が進み、検査依頼から結果報告に至るまでの一連の業務体系が共有化されるのです。延いてはヒューマンエラーの軽減に繋がっていると思われま


す。たかが整理・整頓、されど整理・整頓なのです。皆様の施設でもご一考いただければ幸いです。

尚、5S活動を成功に導くためのキーワードは“率先垂範”と“全員参加”です。

「県南支部だより」

県南支部事務局長

太田総合病院附属太田熱海病院 田村 功
県南支部事務局長では、特別な行事はあまり実施しておりませんが、毎年4月の支部総会と講演会には始まり、2～3回の役員会、三役会を経て、恒例の新年会を開催しています、今年は、70名の会員に参加して頂き、楽しい交流の時間を持つことが出来ました。

また、3月には県南支部のみかと思われませんが、郡山市耳鼻咽喉科医会主催の『耳の日のイベント』がおこなわれ、毎
 年会員施設が聴力検査業務行っています。
平成18年度の県学会は、県南支部が担当で、5月20日(土)、21日(日)ふくしまビックパレットにて開催する予定です。
是非、多く的一般演題、ご参加をお願いいたします。

「第46回東北医学検査学会関連ニュース」

県北支部事務局長

いちかわクリニック 藤野 高志
前回のエコーNo.126に第46回東北医学検査学会の開催要綱案が掲載されてから二ヶ月が経過しました。内容も確定し、特にレクチャーに関しましては5部門14名の講師が決定しました。ランチョンセミナーにつきましては賛助会員各社に公募しましたところ多数応募がありました。こちらは、現在実行委員会において公平に選定しているところでまもなく確定の予定です。

基本計画書は1月22日に開かれました理事会に提出され、了承されました。学会の開催に向けて大きく前進した感じられます。今後の予定ですが、3月初旬には要綱集の校正にはいり、3月下旬までには皆さまのお手元に届くという予定です。現在実行委員が丸一となって取り組んでいる所です。学会運営につきましては、今度は皆さまの力をお借りしなければなりません。盛会に行えますよう、ご協力をお願い致します。尚、(社)福島県臨床衛生検査技師会のホームページからまもなくリンクされるようになると思います。是非ご覧ください。

「相双支部だより」

相双支部事務局

鹿島厚生病院 加藤 裕一

早春の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

相双支部では今回第37回福島医学検査学会・総会を担当することとなり、各関係者と共に支部会員一丸となって準備を進めているところであります。学会当日、会員多数のご出席を支部会員一同心よりお待ち申し上げます。

お話し変りまして相支部技師会では、毎年1月末に恒例となっております新年会を開催致しました。今年は、第37回福島医学検査学会の担当支部として、県学会団体結会も合わせて、久しぶりの会場にて32名の各会員のご参加を頂き、
 楽しい談義、楽しいカラオケ、かゴゲーム、そして何された料理の豪華さ方大変好評でした。段はお手ごろだったのですが)

そのような中で、会員の皆様方には安らげるひと時を過ごしていただくことができ、趣旨通り団結も強まった感じの新年会でした。

「いわき支部事務局長として」

いわき市立総合いわき共立病院

蛭田 栄子



平成16年度のいわき支部事務局を担当してもうすぐ1年になろうとしています。事務局を担当する話があった時は、自信の無さから、却って事務局の業務に支障をきたしてしまうのでは

と思い、お断りするつもりでした。しかし、後数年で退職を迎えるにもかかわらず、いわき支部を発足した諸先輩、また、今まで支えてきた役員の方の苦労も知ることなく、退職することになってしまうと思い、事務局を引き受けることにしました。

資料配付、文書作成、毎月実施される役員会など、結構な仕事量ですが、内容の理解ともに、スタッフに支えられながら現在進行中です。先輩の方達が築き上げたいわき支部技師会を盛上げる事なく、益々活発に運営できますよう、老いた脳細胞に刺激を与えながら、会員皆様にご迷惑を欠けないよう、一生懸命努力していきます。最後に臨床検査技師会(支部・県・全国)は会員皆様の協力があつて成り立っています。今後とも宜しくお願い致します。

平成17年度コントロールサーベイ

タイムスケジュール

1. 申込書の発送：平成17年6月6日(月)
2. 申し込み締め切り：平成17年6月17日(金)
3. 試料準備期間：平成17年6月23日(木)～
4. 試料発送：平成17年7月12日(火)
5. 報告書締め切り：平成17年7月22日(金)
6. 集計・解析・製本：平成17年10月21日(金)
7. 解析資料集の発送：平成17年11月18日(金)
8. 報告会：平成17年12月18日(日)

第12回 福島県臨床検査精度管理調査事業報告会

平成17年3月27日(日)郡山市ビッグパレットふくしま3F会議室にて開催されました。参加者は県内各地から年度末の忙しい中151名も集まりました。

精度管理委員長遠藤 隆さんの開会の挨拶に始まり、第一部の報告会は大原医療センター大花 昇技師の座長により開始されました。一般検査部門は赤間孝紀技師(大原総合病院)、輸血検査部門は菊池良子技師(白河厚生総合病院)、血清検査部門佐藤由紀子技師(福島県立会津総合病院)、微生物検査部門は山口みどり技師(福島労災病院)がそれぞれ報告されました。

休憩の後第2部は座長を福島県立総合衛生学院臨床検査学科の高橋清明技師が勤め、血液検査部門は大竹瑞枝技師(いわき市立総合磐城共立病院)、生理検査部門は椎



根賀子技師、臨床化学部門は斉藤市弘技師(竹田総合病院)と吉田幸雄技師(太田西ノ内病院)が報告。精度管理委員の皆様が、業務の合間に試料の準備から、結果報告書の解析、まとめ、報告集の編集発行と多大なる時間と労力を費やして下さいました。レベルの高い報告会となったことをお知らせいたします。午後の学術講演会は三森技師がまとめてくださいました。

学術講演「常識への挑戦 コレステロールは本当に低い方がいいのか？」をきいて

いわき市立総合磐城共立病院

三森 美津江

開口一番、「結構、高い方がいいです」講師の富山医科薬科大学教授である浜崎智仁先生のお話が始まりました。

毎年の健康診断で△印のつく総コレステロール、あの△が先生の結論からすると260mg/dlなら〇・・・驚きです！頭痛の種である△印が、今年ようやく、「あるある大辞典・ためしてガッテン・スパスパ・本当は怖い家庭の医学」などあふれる情報の中からコレゾと思えるものに挑戦し、やっとの思いで〇印220mg/dlとしたのですが、なんと必死で下げた前年のデータは256mg/dl、コレってもしかしたら先生の言われた一番長生きする260mg/dl以下の値じゃないの！残念！！先生のお話は続きます。「細目が美人？否、ポッチャリ形が美人」わが意を得たり、もしかして私って超・超・美人かも？太古の昔よりDNAの組み込みでガリガリのファッションショーモデルより太目のポッチャリ形が好まれるそうです。

こんな序盤からお話は本題に入りました。高脂血症の治療ガイドラインが定めた目標値220mg/dl以下がいかにも間違いであるかを、実際の多くの統計データから説明されました。関連があるとされる心冠動脈疾患も260mg/dl以下なら有意差がないこと、総死亡率においても同様な結果でした。むしろ低コレステロール群の方が危険であること、また親が糖尿病、膝の病気、コレステロールが300mg/dl以上、中性脂肪が1000mg/dl以上などの危険因子を有する人はコレステロールを真剣に考え管理する必要があるとの事でした。家族性高コレステロール(HF)と健常人を混ぜての統計が220mg/dl以下の神話を作り出す原因とも話しておられました。

最後に食べものにも触れ、総死亡率とのデータを示しながら植物油よりもバターの方が良いことや、卵もけして害にはならないとのお話でした。あつという間の一時間が過ぎ、先生の果敢なる常識への挑戦の気迫をおおいに感じ、目から鱗の思いで楽しくしかも有意義に聞かせていただきました。

平成15年度一般教育研修課程修了証書

福島県はなんと78名!!

「県南支部」 16名

安藤政喜 作間靖子 慶徳克美 大河原千恵 室義雄 植田政浩 佐久間真智子 西牧幸子 武藤文彦 松本幸男 大内愛子 斉須敏栄 高久田美江 前田順子 笹川佳子 藁谷城司

「県北支部」 17名

佐藤敏夫 服部修作 羽田さくの 宍戸 智 松原美佐子 平木宏幸 比佐哲夫 渋谷正枝 高橋清明 安田広康 赤間孝紀 斉藤祐一 藤東千香子 八巻史子 佐藤由峰 須釜久美子 藤野高志

「いわき支部」 28名

藤沢卓三 蛭田栄子 三森美津江 若松和代 鈴木則子 山内郁子 佐藤久美子 石川智子 金子隆子 高萩政子 青天目勇二 白土洋子 高倉澄江 鈴木佳代 杉山洋子 新藤康博 柴田昭浩 志賀真砂子 郷田順子 遠藤みどり 馬目享子 森 菊夫 菅野英明 山田由美子 菱川恭子 廣川邦子 高木聡子 前場恵一子

「会津支部」 15名

芳賀厚子 小竹文美子 青木富美男 宮森由美子 阿部浩子 岡田 譲 長谷川麻利子 五十嵐君子 斉藤市弘 江川由里子 折笠英子 佐藤うめじ 小林尚子 武石宣子 佐藤由紀子

「相双支部」 2名

武花利美 小林正一

編集後記 去年埋めておいた球根が一斉にによき芽を出しています。春が来ました。今年の10月には福島で東北学会が開催されます。変化への挑戦を。(か)